


| | | | | |
|------|-------------------------------|--|-----|----------------------|
| 校訓 | 友 勤 自 愛 勉 治 |  令和8年度 東中だより 第4号 | 発行日 | 令和8年5月19日 |
| 教育目標 | 多様化の時代を生きる 心身ともにたくましい生徒の育成 | | 発行者 | 伊丹市立東中学校 校長 前田 徳三 |

【みんなでつくる、子どもたちのウェルビーイング】

令和8年度伊丹市教育基本方針と重点政策では、「Well-being につながる 未来につながる みんなでつながる 伊丹の教育」を掲げています。これは、子ども・教師・保護者・地域の方々が同じビジョンを共有し、それぞれがつながり合いながら、学校園を中心に「幸せを感じられる場」を広げていこうという願いが込められた言葉です。



Well-being とは、心や体、そして生き方そのものが満たされた状態を指します。うれしいことがあった場合の「Happiness」とは少し違い、安心感や充実感が長く続く、幅の広い幸せのことです。世界的な教育の指針であるOECDの「Learning Compass 2030」でも、「ウェルビーイングこそが教育の目的である」と示されています。ウェルビーイングは、子どもだけの頑張りでは達成できません。子どもの身近にいる親や教師、地域の方々、地域の文化やリソース（目的を達成するために活用できる「資源」）など、様々な環境の中で作られるものです。そのため、子ども、保護者、教師のウェルビーイングの実現は、互いに深くつながって成し得るものです。

また、子どもが安心して学べる学校では、教師もやりがいを感じ、前向きに教育に取り組むことができます。そして、教師が生き生きと関わることで、それが子どもの成長をさらに促します。家庭においても同様で、家庭での安心感は、子どものよりよい成長の土台となります。

これからの学校づくりに求められているのは、子どもだけでなく、大人も含めた「みんなのウェルビーイング」の実現だと考えています。子どもたちにとって一番身近にいる大人である親や教師が「人生も仕事も楽しんでいる」姿を見せることは、とても大切なことです。大人が楽しそうだと、子どもたちは未来に希望をもち、「大人になるっていいな」と憧れを抱くこともできます。

逆に、私たち大人が自分自身を大切にできなければ、子どもを本当に幸せにすることはできないと思います。「自分のために一生懸命働くことが、結果として子どもたちの力になる」「子どものために尽くす努力が、結果、自分自身の成長につながる」。この二つは、共通するものだと思います。

現在、「プラダを着た悪魔2」という映画が上映されています。見られた方もいるかもしれませんが、1作目の『プラダを着た悪魔』で、編集長ミランダが語る「高みを目指し、人の役に立つ仕事をしなさい。その先にある幸せを自分の手でつかみなさい」という言葉を20年前にとっても感銘を受けたことを覚えています。この言葉は、人生への深いメッセージだと感じます。

大人も子どもも、互いに Well-being を目指しながら、共に楽しむ。そんな「後ろ盾と願いのある教育」を学校・家庭・地域が一体となって育んでいきたいと考えます。

もし、お子さまのことでご心配なことやお悩みがございましたら、どうぞ遠慮なく、担任や学年職員にご相談ください。また、必要に応じて、管理職が直接お話を伺うことも可能です。内容に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家につなぎ、適切な支援を行ってまいります。

【体験活動を通して育つ子どもたち】

子どもたちは、各学年で予定している修学旅行などの体験活動に向けて、楽しそうに取り組んでいます。この体験活動は子どもたちにとって、主体性や協調性を育むことができる大きな学びと成長の機会です。現在、デジタル技術や AI の進展により、様々な利便性を高めています。だからこそ、人と人との関わりといったいわばアナログな価値の重要性が一層高まっていると感じています。

本校では、3年生は5月26日（火）～28日（木）に九州・長崎方面へ修学旅行に行きます。2年生は5月25日（月）～29日（金）にトライやる・ウィークに行きます。（※事業所の都合により、前後の土・日に実施する場合があります。）1年生は、6月9日（火）～11日（木）に鉢伏高原で林間学舎を行います。各学年が学校を離れ、多様な文化や自然、人との関わりに触れる貴重な体験を行います。

こうした体験の中で、子どもたちは美しい景色や異国情緒あふれる文化に心を動かされ、「すごい」「きれい」などの驚きや感動に触れます。また、様々な地域の方々との交流や新たな発見を通して、「大人ってすごい」といった憧れや尊敬の念も育まれます。



このような感情の動きが、他者への思いに共感する心を養ったり、自己肯定感や自己効力感を高めたりする土台となります。目に見える学力だけでなく、非認知能力の育成という点でも、大変意義の深い学びだと思えます。

体験活動の価値は、実施した、行ったということではなく、その過程にあります。仲間と話し合い、考え、迷い、時には上手くいかないこともあると思います。そして、仲間と一つの答えを導き出していく過程において、普段の学校生活では体験できない成長があります。自分たちで決め、やり遂げたという経験は、子どもたちの中に確かな自信として積み重なっていきます。

ご家庭におかれましては、子どもたちの話に耳を傾け、ともに感動し、楽しんでいただければ幸いです。「楽しかった」「やりきった」という思いに共感していただくことで、子どもたちの心の成長がより豊かなものになると思います。教職員一同、子どもたち一人ひとりの「やってみよう」という思いと、必要な学びとのバランスを大切にしながら、これらの体験活動がかけがえのない学びとなるよう努めてまいります。そして、学校とは異なる環境で見せる子どもたちの新たな一面を温かく見守り、その成長の喜びをともに分かち合っていきたいと考えています。